

## 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第1回会議 会議録

日時	平成27年8月21日(金) 午前10時～12時		場所	市役所本庁舎3階 大会議室
出席者	推進会議 委員	内田 俊宏 委員（中京大学経済学部客員教授）【座長】 山本 武司 委員（清須企業懇話会幹事） 富田 正美 委員（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室室長） 北山 ゆり 委員（愛知県立新川高等学校校長）（代理出席：丹羽弘之教頭） 舟橋 啓臣 委員（愛知医療学院短期大学学長） 山田 功 委員（中日信用金庫理事長） 平野 邦弘 委員（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）		
	清須市	市長、副市長、企画部長、事務局（企画部企画政策課）		

### 1 開会

#### ○市長あいさつ

##### 加藤市長

おはようございます。本日、委員の皆様におかれましては、用務ご多忙の中、この「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。この度は、その第1回目の会議を開催させていただくにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

この清須市でございますけれども、2度の合併を経まして、今年ちょうど市制10周年を迎えます。安心・安全、そして快適かつ元気なまちづくりということで、災害に強いまちづくりをはじめとして様々な施策に取り組んできたところでございます。一定の成果が出てきたところかなと思っております。今年度は節目となりますので、今後の明るい展望が開けるようなまちづくりを進めるスタートとなる年としたいと考えております。

我が国は、2008年をピークといたしまして、人口減少の局面に入り、今後2050年には9,070万人程度、2100年には5,000万人を割り込む水準にまで減少すると推計されています。加えて、地方の若者世代が東京圏へ流出して、人口の一極集中が加速し、国全体が少子化、人口減少に陥るという状況を迎えております。

人口減少が地域経済の縮小を呼び、そのことがさらなる人口減少を招くという悪循環に陥ることになりますので、地方創生を成し遂げることは、今後とも地域社会の活力を維持していく上で、欠かすことのできない取り組みだといえます。

国は平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、2060年に1億人規模の人口を維持すべく、地方創生に取り組むこととしております。

本市といたしましても、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、今年度中に清須市版の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定の上、本地域における地方創生の取り組みを着実に進めてまいります。

本日の会議におきましては、本市の総合戦略を策定していく上で、委員の皆様それぞれのご

専門のお立場から、様々なご意見・ご提案をいただきたいと考えております。本市の特性を生かしたより良い総合戦略の策定に向けて、ご協力をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。はじめのごあいさつに代えさせていただきます。

## ○委員紹介（事務局）

## 2 議題

### (1) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

#### ○座長あいさつ

##### 座長

皆さんおはようございます。ただいまご紹介いただきました、中京大学経済学部の内田と申します。昨年まで三菱UFJリサーチ&コンサルティングというシンクタンクにおりまして、今年から中京大学の方で経済学部で幾つか講義を持っております。

私は、一宮市に住んでいまして、清須にも非常に近いですが、清須のまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に携われるということは、非常にありがたく思っております。

時間も限られておりますので早速、議事を進行していきたいと思っております。最初に「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について」ということで、お手元の資料について事務局よりご説明をいただいた後で、各委員の先生方に順次ご発言をいただきたいと思っております。

それでは事務局より、本日の資料についてのご説明をお願いいたします。

## ○資料説明（事務局）

## ○意見交換

### 1) 本市の地方創生の取組みを進めるにあたっての課題・視点・方向性等

#### 座長

ありがとうございました。それでは、事務局から説明がありました資料、清須市の人口動向その他の資料を踏まえまして、清須市が地方創生の取組みを進めるに当たっての課題・視点・方向性、そういったところについて早速、議論を始めてまいりたいと思っております。

各委員からご意見をお願いしたいと思います。まず清須企業懇話会の山本委員から、ご意見を頂きたいと思っております。

#### 山本委員

山本でございます。私の意見としましては、清須の人口動向を踏まえて、今後の課題や視点につきましましては、私自身は資料にもありますとおり、滞在人口の増加、こちらが課題なのかなと考えています。定住人口を増やすことも、もちろん重要だと思うのですが、爆発的に人数が増えるということであれば、やはり滞在人口、特に、休日の滞在人口の増加ということが重要かというふうに考えております。

重要検討分野にも書かれているのですが、そのためには、観光振興が欠かせないのではないかとこのように考えております。資料にもありましたとおり、点ではなく面での活用というのがポイントですので、いろいろな清須市内の個性、あるいは近隣地域の個性を活かして検討していきたいと考えております。

この後、恐らく戦略提言会議の中での議論になるのかもしれませんが、取り急ぎ進めるに当たって、例えば観光振興のために何をするかということを経験する前に、メインターゲットが何なのか、例えば若年層、若年層だとしても小学生なのか中学生なのか、それともファミリー層なのかシニアなのか、あるいは、日本人でなくて外国人、外国人をターゲットにするのなら国籍はどちらなのかということをはっきりと定めないと、この後の方向性がぶれるのかなと思っています。

もう1つは目的です。何のためにやるのかです。例えば、単純に人さえ増えればいい、来ていただける人さえ増えればいいと考えるのか、それとも、来ていただいた方がより深く感動して「清須市って良い市だな」と思ってもらえるところまで行くのか。いわば量の部分と質の部分、この辺のバランスをどうするのかということも、きちんと検討していきたいと思っております。

その2つを踏まえた目標というのをきちんと定めて、スケジュールどおりにいきますと2015年の12月にKPIを策定とありますので、それまでにきちんとメインターゲット、あるいは目的というところをはっきりと方向性をそろえた上で目標を設定しないと、ここがずれますとその後、進んでいけば進んでいくほど大きなずれになっていきますので、それをまずしっかりと固めていく必要があるのではないかと考えております。

## 座長

ありがとうございました。山本委員の意見は、全面的に賛同できる部分で、やはり滞在人口とか交流人口が増えて初めて、そのまちのブランドイメージというか、まちとして認識してもらえる、それが定住人口の増加に一番つながっていくという流れだと思います。まちのイメージというものが先行していかないと若い人に興味を持ってもらえない。

そういう意味で言うと、清須も清洲城があったりしますけど、市の漢字はあえてさんずいの「清洲」にしていけないというのも、イメージを払拭するということかと思いますが、清須の良い面、悪い面を把握した上でPRしていくという方向性が必要なのかなと思います。

山本委員からお話がありました観光というのも、清須では非常に有望な産業分野だと考えておられて、また、ターゲットが非常に重要とのご意見でしたが、私もそのように思います。お城というのは観光資源としては非常に重要なのですが、例えば国宝の犬山城とか、ロケーションが非常に良く大規模な名古屋城、こういうところと伍していくというよりは、やはり名駅に近いというロケーションを活かして、むしろ訪日客にターゲットを絞ってしまった方がいいのかなと思います。

先ほど市の説明で、国内のシニア層、アクティブシニア、これは地元ですけど、シニア層なんかも意識してという方向性もあったかと思いますが、やはり国内のシニア層というのは、本物指向というか、しかもお金は持っていますがなかなか使うところでハードルが高いと

ということもありますので、そういう意味ではリニアの名古屋駅というのは北側のより清須に近い方に整備されますので、そこからのバスとか現実的なアクセスも含めて、訪日客にターゲットを絞った方がいい。ちょうど経産省が訪日客に優しい店の認証制度を始めますけれども、そういったお店をどんどん増やしていくことで、逆に訪日客にブランドイメージを植え付けて、海外でなぜ清須が人気なのかとか、そこから逆輸入をしてくる。そういうメディアの使い方もあるのかなと感じました。

それでは続きまして、富田委員からお願いしたいと思います。

## 富田委員

失礼します。愛知県教育委員会の文化財保護室長の富田と申します。清須市の方々には、この会議を主催しておられる企画政策課の方をはじめとしまして、産業課や教育委員会の方には、本当にお世話になっております。どうもありがとうございます。まず冒頭にお礼を述べさせていただきますと思います。

今、山本委員からご発言ありましたけれども、やはり私も一緒のことを考えまして、いろいろな資料、先ほどのご説明については、合計特殊出生率なんかを見ると高い水準にありますし、人口の推移も微増傾向で比較的安定している。高齢化は進展するけれども、それほど深刻な状況ではないのかなというふうに聞かさせていただきました。

ただ、その中で、休日人口が流出超過ということでございますので、例えば山本委員がおっしゃったように、休日にいかに人を呼び寄せるか、人の流れを作るかということとか、あとはまた、地域と地域の連携をいかに促進するのかということに視点を置いて、長期的な持続性のある施策を講じることが必要ではないかなと感じました。

そのためには、資料5の冒頭の所に観光振興と書かれてございまして、まさにこれは我々が作ったのではないかと思うくらい、県のことをいろいろ持ち上げて書いていただいています、本当にありがたいと思っていますが、ここに書いてございますように、清須市が有する歴史的資源を活かした観光振興を図るために、まず関係機関で目的意識を共有して、合意形成を図ることが重要ではないかと思っています。

清須というと清洲城がかなり有名で、清須市以外の方も結構ご存知ですけれども、ここに書いていただきました朝日遺跡という、登呂遺跡とか吉野ヶ里遺跡に匹敵するような、全国でも五本の指に入るようなすばらしいものがありまして、出土品の土器なんかはスミソニアン博物館にも貸し出しをしている本当にすばらしいものがあるのですが、実は清須市民の方に個人的にお聞きしてもあまり知られてなかったり、私も教育委員会で約30年くらい仕事をしているのですが、自分もこの職に就くまではそこまでは知らなかったというような現状でして、いかにこの辺を上手に発信し、なおかつ、清須市の宝として、どのように地域の方をはじめ、今言った国内外の人を呼び込むようなものにできるかというところが、一緒に考えていきたいと思っている部分でございます。

資料5の囲みに記載していただいている日本遺産魅力発信推進事業は、平成27年からの文化庁の事業でございまして、従来は、文化財というと、保護とか保存の方にどうしてもウェイ

トが偏りまして、活用という部分も文化財保護法には書いてはあるのですが、どちらかという  
と活用の方にあまり力が入ってなかったということでございます。今後、東京オリンピックや  
リニアの開通を含めまして国内外の人の動きが活発化するということもありまして、近年は、  
文化財の活用は地域振興や観光振興、ひいては地方創生に資するという認識がかなり深まって  
いるというふうに思っております。私どもも、保護や保存も大事なのですけれども、活用し  
ていくという視点がかかなり足りないものですから、意識を改革して、今年度からはそのような  
方向で仕事もするようにしているところでございます。

そんなことで、日本遺産と書いていただいたのですが、資料を見て私どもの立場で考えます  
と、愛知はモノづくりが盛んで、モノづくり愛知というようなこともありますし、知事もその  
ような意見をいろいろなところで発言しております。そうしますと、まさに朝日遺跡という所  
は、昔、勾玉とか木製の道具や金属器というようなものを作っていた、モノづくりの愛知の原  
点ではないかと我々は捉えております。東海地方最大の弥生都市であった遺跡を、そういった  
モノづくりの源流、原点ということで、愛知県のモノづくりに関連する様々な市町を結び付け  
て、日本遺産ということで打ち出すことも可能ではないかと思うところでございますので、そ  
の辺につきましてはいろいろ力を貸していただきながら、愛知県だけではなく清須市、それぞ  
れ連携した市町が元気になっていくような方策が考えられればと思っております。

## 座長

ありがとうございました。富田委員のお話で、平日人口の流入と休日人口の流出というご指  
摘がありました。これを解消していくという見方もありますが、平日は、工場もたくさんあり  
大企業がたくさんありますので、当然流入はする。休日に関しても、これだけ名駅に近い立地  
ですので、市からの流出もある程度仕方がないという前提に立って、むしろ名駅へのアクセス  
時間をより短縮する、利便性をさらに追求するという方向性もあるのかと思いました。

ベッドタウンでも、例えば岐阜市のように名古屋のベッドタウンに甘んじていてはいけない  
という考え方もあるようですけども、ベッドタウンでいいじゃないかという考え方もあるか  
と思います。それで名駅へのアクセス時間というのを考えると、バスでかなり頻繁にピストン  
輸送をすとか、インターチェンジへのアクセス時間短縮や渋滞を解消するような、新たなイン  
フラ整備というよりは、何か工夫をすることで通過交通量との分散とか、既存のインターチ  
ェンジへのアクセスなんかも改めて見直すというようなことも必要なかと思えます。

それから、観光については、朝日遺跡については、正直に言って比較的マイナーというか、  
地元でも知られていない存在という可能性もあります。桶狭間古戦場は、今、名古屋市長も市  
の観光地として、豊明市との間でいろいろやっていますけど、逆にそれは、協力して観光地化  
していこうという動きでもあります。私自身も、桶狭間とか長久手や関ヶ原など、教科書で見  
ていたような地名が、当地で車を運転していると普通に交差点の表示にあることに驚いたの  
ですが、富田委員がご指摘のように、この地域はモノづくりの存在があまりに大きすぎて、観光  
にそれほど力を入れる必要がなかったのだと思います。これは清須市も同じようで、大企業の  
工場もたくさんありますので、そういう状況だったと思うのですが、やはりこれから交流人口

を増やしていくためには、そういったところにも目を向けて、最終的にはまちのブランドイメージを作っていくなくてはならないと感じます。

そういう意味では、先ほどは訪日客がターゲットとしていいのではないかという話をしたのですが、朝日遺跡や清洲城という所は、地域資源の性質によって、ターゲットを変えていくという視点も必要なのかなと思いました。

## 丹羽委員代理

本校も清須市には本当にいろいろな面でお世話になっております。今年度から1年生の総合的な学習の時間で清洲城と貝殻山貝塚資料館について、事前学習をした上で見学に出かけて発表するという企画をしまして、市の観光協会の方にも全面的にバックアップしていただいております。本当にありがとうございます。

本校の状況ですけれども、今年度、30周年を迎えました。創立からしばらくは地元の4中学校の占有率が90%弱と、おそらくほとんど地元の生徒が本校に通って、その結果、地元に着率も結構多かったと思います。市役所にも本校の卒業生の方が、結構いらっしゃると思います。ところが、30年経ちまして、現在では地元4中学校の占有率は20%を切っております。平日の流入人口という視点でいえば、本校は今960名の生徒がおりますので、名古屋市をはじめとして、かなり広範な地域から毎日700名くらいは、通学してきております。

そうすると、清須市のことをあまり知らない生徒が多いものですから、市内のいろいろな場所に出て、市の魅力を知ってもらうということを、今いろいろやっているところです。

それから、市内からの生徒が減ったということで、大学等に関しても結構他の地方へ出ています。そうした生徒たちが将来どのくらい戻ってくるかという点ですが、名古屋がございますので、比較的地元には戻ってきますけれども、市内で働くという部分では少ないというのが、本校の状況でございます。

それから、清須市というのは、生徒や何かに魅力を伝える部分で、信長等のブランドがございますので、是非その辺はしっかり発信していただきたいと思います。桶狭間には清洲城から出発しておりますし、信長死後の動向でいえば、清須会議も映画になりましたし、関ヶ原の合戦の際には、清洲城主であった福島正則がキーマンになっておりますので、いろいろな信長ブランドを活かせると思います。生徒にもよく信長の話をするのですけれども、是非活用していただきたいと思います。

ちょっとした工夫で引き付ける部分もございますので、たとえば、清洲城で「天下布武せんべい」と「信長もなか」を売っていますけれども、信長は、花押ではなくて「天下布武」という印鑑を使った人物ですので、せんべいやもなかに「天下布武」と押すとか、そういった言葉を付けてアピールしたり、ちょっとした工夫で本当に人を引き付けられると思います。

先日、「ぬりかべ焼酎」という焼酎を土産でもらいました。境港市の造り酒屋さんが作っているのですが、水木しげるさんの「ゲゲゲの鬼太郎」に出てくる「ぬりかべ」の描かれた小さな手の平サイズの米焼酎で、350ccくらいです。900円弱と値段は結構高いですが、これは、見かけたら結構買いたくなります。自分も、もらって「いいな」と思いました。

そんな工夫でいろいろなことができると思いますので、市内にはキンビールさんもございますし、清洲桜醸造さんの鬼ころし、あと、太陽ソースさんもブランドだと思いますので、是非そういったものを活かしていただきたいと思います。

私、春日井市の県営名古屋空港のそばに住んでいますけれども、名古屋空港の頃に、エアフロントオアシスという公園ができました。こんな所に公園を作って人が来るのかと思ったのですが、今ではF D A等しか飛んでいませんが、それでも駐車場に入れなくらい、結構な人が集まっています。

清須市は、そう考えますと東海道線や新幹線が走っています。私の孫が電車好きなものから、新幹線を見たい、電車を見たいといったら、清洲城の天主閣に連れていくと、孫は、本当に1時間くらいずっと見ているんですね。

そう考えると、清洲公園のあたりに鉄道を見ていられるような施設を作れば、新幹線の「ドクターイエロー」が時々通りますので、「ドクターイエローを見たら何かいいことがあるぞ」というような発信をしたりして人を集めるなど、ちょっとした工夫でできると思います。

## 座長

ありがとうございました。若年層には、確かに流入している部分と流出している部分、両方あると思うのですが、若年層や女性、特に女性が働く業種がなかなかないという面もあるかと思えます。企業誘致に関しては、若年層や女性が活躍できるような、そういう業種・業態が誘致できるのであれば、非常に方向性としては良いのかなと感じました。

それから、以前、戦国武将から選ぶ理想の上司アンケートをやった時の話ですが、実はこの地域では織田信長の人気はそれほど高くなくて、武田信玄、豊臣秀吉、それから徳川家康と来て、その次に信長が来るわけです。東京や大阪よりも信長の順位が非常に低かったわけですね。これはやはり、製造業が盛んなので、チームワーク、組織力を重視するような土地柄ということもあって、この地域の若い人には、信長のカリスマ性や強いリーダーシップというものが、逆に短気なイメージを与えてしまい、じっくりと腰を据えて堅実にやるというイメージがないようです。ただ、桶狭間など、他のエリアとの信長観光ルートの1つに組み込むというのは、名駅からの立地を考えても、やはり非常に有効かというふうに感じました。

鉄道については、確かにお城と新幹線の組み合わせというのは、非常に意外性があります。訪日客の中には、新幹線に乗る必要のない人も、わざわざ新幹線に乗るといった人もいますし、鉄道ファンには、全国どこにでも鉄道で移動する、非常に熱心で探究心の強いファンが多いようです。今、名古屋港には「リニア鉄道館」があり、今度は中津川にもリニアの車両基地ができますし、それから、名古屋市長はS L、あおなみ線を定期運行したいと将来的に考えているということで、各務原の航空・宇宙関連の展示館を加えれば、乗り物に関するいろいろな集客施設が立地、整備されます。新幹線が見えるお城など、何か別の視点を加えて観光振興を図っていくという発想もありなのかなと思います。1つのテーマで集客できればいいですけど、やはりなかなか難しいと思いますので、八ヶ岳のような連峰型の構造で、いろいろなものを多方面に手を付けて、その中で有効なものを絞り込んでいくということも必要なのかなと感じ

じました。

## 舟橋委員

いつも清須市役所の皆さんにはお世話になっております。私は50年以上名古屋に住んでいて、こちらに勤務するようになって7年です。地元の皆さんのご意見が多いので、私は少し離れた、名古屋からこちらへ来てどう感じたかということをお伝えしたいと思います。

ちょっと極端な表現をするかもしれませんが、お許してください。まず、驚いたのは道路事情です。狭い道路が多く、一方通行が多いので、なかなか目的地へたどり着かない。それから、使われてない農地が多い。この2つを非常に強く感じました。

今後、少子化に歯止めをかけるには、やはり若者が住んでくれて、結婚して子どもを作ってくれないと少子化は解消できないわけで、若者に来てもらうためには、やはり企業誘致が必要だと思います。企業誘致をするためには、やっぱり道路が良くないと企業は来てくれないと、私は常々そういうふうに思っていました。

名古屋は、どんどん東の方へ発展してきました。道路を作り始めると、どういうわけかすぐに洋服量販店がポンとできるのですね。それできると、必ず街がわっと大きくなる。道路が拡充し、周りに更にいっぱい家ができる。ということで、どんどん東へと発展してきました。

そういうことから考えても、清須市には土地がある、余っているのかどうかは分かりませんが、それを農地政策を転換するというので、もう少し企業が入りやすいような状況を作るといのが大事ではないかと思いました。何も知らずに勝手なことを言っているかもしれませんが、お許してください。

それから、私どもの短期大学のすぐ横に、新しい広い道路が2本できました。そうしたら、まだ1年半くらい前ですが、建売住宅があつという間にできました。要するに、道路によってまちが開けるという考えを持っているので、そのように申し上げました。

清須を語る上で、やはり清洲城は外せないと思います。先ほどからのお話のように、新幹線からの景色で、赤い橋が見えて清洲城があると「清洲城へ行ってみよう」と、電車に乗っているときは思います。そして、名古屋駅からJRに乗れば2駅目と非常に近い。しかし、JRの駅を降りると、露骨な表現ですみませんが、なんて寂れた所だろうと感じる。

JRも名鉄もそうかもしれませんが、駅がもう少し魅力あるものにならないと、せっかくの資源が活かさない。もし海外からも観光客が来てくれるのであれば、駅を降りたときにお店シャッターがみんな閉まっていたら、寂しい所という印象しか持てないので、それをもう少し今後考えていったらどうかと思っています。

それから、清洲城には2~3回行きましたが、行って見て一番強く感じたのが、休む場所がない、全くないと思いました。案内所がありますが、本当に消極的な案内所という体裁で、中へ入って行ってこちらから働きかけないと動きがないという印象を持ちました。駐車場の方へ行けばレストランがありますが、何故、案内所の近くに茶店だとか、子ども連れで来た人たちが休める場所がないのかと、非常に強く感じました。喉が渴いたとか何とか思うとそばには休む場所がないので、お城から離れるということになってしまい、なかなか長居ができない。また

今度行こうかと思っても、飲んだり食べたりする所もなかなかないから、という話になってしまう。駐車場は広くて大変助かりますが、そういうことを感じました。

武将隊もいいのですが、もうちょっと流行のピークは過ぎたと思います。今や女性の力、「城女」という言葉があるのかどうか知りませんが、「女」という字を付けたアイデアを出していくという方向へシフトした方がいいのかなという気もいたします。

批判的なことも言いましたが、施設等を利用した人がどう感じるかということを知ってもらう上で意味があると思い、述べさせていただきました。

## 座長

ありがとうございました。道路事情に関しては、私も少し触れたのですが、やはり高速道路とか鉄道網を今から整備するというのは、予算の上でも非常に厳しいところがあります。そこまでのアクセス時間の短縮とか利便性を高めるためにできないかという指摘をいたしました。一般道も含めて、通過交通との仕分けをできるような工夫があると良いと思います。最近カーナビで動く方も多いので、そういったところの現実的な課題と方策を洗い出すのも1つかなと思いました。

それから、2点目の駅前まちづくりと周辺整備というのは、市長を先頭に市でも取り組んでいるということですが、やはり民間が主体となってやるべきことなので、なかなか進んでいかないところもあるかとは思いますが。訪日外国人客をターゲットにした場合、特に彼らの中でもバックパッカーのような人たちは、ほとんど公共交通機関で移動しますので、通常は電車を使ってということになるかと思えます。

これも冒頭にお話したように、まちづくりがなかなか進まないということであれば、名駅からのバスでのピストン輸送によるアクセスということで、これは訪日客向けにはスマートフォンなどでの情報提供も必要になると思いますが、海外のパンフレットとかガイドブックに、清洲城へのアクセス手段を載せてしまえば、そういうルートで誘客できるのかなというふうに思います。

それから最後にお話になった清洲城近くに茶店や休憩場所がない点、これは比較的容易に改善できるかと思えますけれども、滞留時間を長くするには、やはりまったりとお金がかからずに休憩できる場所が必要です。たとえば百貨店の例で言いますと、高島屋さんでは、椅子がたくさん設置されているのですが、そこには、ファミリー層が名駅のタワーズに来たら、東急ハンズと高島屋を周遊してもらって建物から外に出さないという、非常に徹底した戦略があります。通年売上でもおそらく松坂屋を抜くと思いますが、地域一番店になる1つの方法というか、JRのお客さんもちろんですけど、名鉄、近鉄を含め、客がいったんタワーズへ入ったらずっといる店舗を実現しています。そのメリットというのは、滞留時間を長くすることです。長くいれば、使わないと思っても結局お金を使ってしまうので、確かに休憩所のような場所は、非常に重要なのかなと思いました。

## 山田委員

中日信用金庫の山田でございます。よろしくお願いたします。清須市は私どもの発祥の地でございますので、いろいろな文化など、非常に関心を持って見させていただいております。私が思っているのは、まず、今日のような会議、いわゆるコラボが非常に重要です。我々の業界の中でも、昔は金融庁オンリーの世界でしたが、今は経済産業省の方々も含めて、いろいろな政策を下ろしてもらっています。これは従前にはありませんでした。

今回の地方創生も、国の政策による強い誘導があって、こういう場になってはいますが、これは非常に貴重だと思っていますので、これをどう地域として活かしていくかが、1つのメインターゲットかと思っています。特に、富田委員のお話にありましたように、県サイドの施策と市サイドの施策、これらは、どれだけ情報の共有ができるかといった点や、相手の意を酌んでやるかということは、非常に難しいことだとは思いますが、けれども、清須市をどうするかということについては、主体が違っていても究極的な目的は一緒だと私は思っていますので、そこをきちっと合わせてやっていくということが極めて大事だと思います。

先ほど朝日遺跡の話が出ましたが、まさしくおっしゃったように、知らない方がほとんどです。非常に残念に思うのは、清須の方々のご存じないということです。何故かという、遺跡、文化財というものは、専門家や研究者のためだけのものではないわけです。この地域に住み続けておられる方々こそ、連綿とした続く歴史を考える上で、一番の原点です。そのことを現在住んでおられる方々が、やはり認識すべきだというふうに、私は従前から思っています。

そういう面では、見える化、例えば情報の見える化、情報の共有化が極めて大事だと思っています。朝日遺跡については、県の方でインターネットの博物館を作っておられます。あれも非常に有効なものだと思います。設備にお金をかけなくてもいいわけですし、いつでも誰でも見られるわけです。そういったことも含めて、いろいろなものを使いながら、見える化していくことが極めて大事だと思っています。

清洲貝殻山貝塚資料館には、つい最近にも複数回行ってまいりましたが、やはり本当に寂しい所です。私は、朝日遺跡に数十年間、いろいろな面に関わっています。発掘現場にも行っていますけれども、あそこの関係者は、非常に悲しい思いを抱いています。

何故かという、お話にあったように非常に重要な遺跡ですが、埋め戻してしまって、見えないですね。長谷川さんという方が復元図を描いておられ、ネット上の博物館で見えるということはあるのですけれども。やっぱり、みんなに知っていただく、たとえば書物で認識していただくことも当然あるのですが、パッと見て分かるということが、情報共有の観点で極めて大事ですので、これをどうしていくかということだと思っています。

それから、観光の話が出ましたが、私は同感だと思っています。最近、日経新聞で愛知県の観光関係の戦略が出ていました。私も再認識したのですが、日本全国で見ると、自動車関連の製造業のGDPベースでの経済規模と、観光関係はほぼ一緒だということで、それくらい経済規模が大きいわけですね。

先ほど山本委員がおっしゃっていましたが、ターゲットを誰にするかですが、今、国策として、外国の方を招き入れましょうということですから、我々の清須市においても、もちろんあると

思いますけれども、やっぱり基本は、地元の人がどう認識するか、これが大前提だと思います。そこに、外部の方々はどう知っていただくかということが第2弾だというふうに思います。

清須市の場合、地の利が良く、先ほど来言われますように大都会へ容易に出られます。逆に、そういうことだから、この辺りの方々が「名古屋にすぐ行けるじゃないか」ということになれば、生活のいろいろな物が名古屋中心になってしまう。そうすると、地方の中ではストロー現象といわれますけども、大都会という中心へ吸い寄せられてしまって、地元へ回帰するという志向がなくなってしまうということがあるのではないかと思います。

清須については、本当に日本の中心都市の一つであったわけですね。そういった中で、例えば清須越がありましたけども、あれも実は自然界の中で、天正大地震による高台移転ということを、研究者の中でもおっしゃっている方がいます。そうすると、いろいろな自然環境はどうなっているか、それによって何が起きているかです。

我々が考えなければいけないのは、確かに今、増田レポートで地方消滅という衝撃的なことが出ましたので、国の方もこういう大きな施策を展開し、愛知県、名古屋市、清須市も一体となっていますけれども、消滅危機のある地方都市に比べれば、はるかに恵まれたヒト・モノ・カネが集まる地区です。しかし、そこに甘えることなく、地方にきちんと、ここに存在している方々が自信を持って生活ができ、清須が好きだと思えるような地域社会を作っていくということが基本だと思います。

吉野ヶ里遺跡に行ってきましたけれども、地元の方がボランティアで説明をしておられました。地元のおじさんでしたが、熱心に説明していただいて、吉野ヶ里遺跡を愛しているのだと感じました。国が整備している途中だから整備したらまたおいでと言われました。その印象がとても強く残ってまして、説明であれば、別にパンフレットを渡せばいいわけですが、地元の方々が自分の言葉でしゃべっておられるので、その心が非常に印象に残っているのですね。

やっぱりこういったことも、今、観光ではいろいろな形ですでにボランティアで案内していただいているんですが、ああいった方々の思いが、リピーターにつながっていき、地域ブランドの向上につながると思います。そして、地元の方々がさらに地元ことを好きになり、誇りを持って地元に住んでいただくことにつながっていくということです。

美濃路も、ある時代の一地域というだけでなく、東海道よりもはるかに根幹を表わす街道だったわけでしょう。そういったものを認識して、やはりこの地域全体をいろいろな所とコラボさせて認識する必要があります。信長サミットもその一環だと思いますけどね。

複数の情報を合わせて地元を再認識する。そういったことからスタートを切って、こういったコラボのいろいろな場面で情報を共有して、地元の方に還元することで、自信を持って地元の清須が好きだという方をたくさん作るということが、大切だと思います。

あと、シニアの方をテーマとして、元気になっていただくということで、今回、重点施策に挙げておられますけど、全くそのとおりでと思っています。何故かというと、団塊の世代の方々が社会人から卒業されてどうするかと、今、四苦八苦されておられると思いますけれども、あの方々が持っておられるノウハウ、考え方、知的資産はものすごく重要だと思っています。こういった方々が、自分の生き甲斐として、地域のためにノウハウを還元していただく。これ

は地域のために非常に重要だと思います。そういったことがやれるような地域にしていくことが大切です。

それから、若者目線の施策については、自分たちのこの地域をどうするか、生まれ育った地域をどうするかということで、ストロー現象で都会に行くのかということを考えるいい機会です。高度経済成長期のときは都会が憧れでしたよね。今は地方回帰の方がたくさんいます。都会では住みにくい、例えば住環境としてはどうだということになれば、広い地域から、自然環境に恵まれたところで住めるようになるということが、地方回帰に持っていかうという選択もあると思うのですね。今問題なのは、こういった方々に清須市においてどうご活躍いただくかですね。

そういうことからすると、この認識の違いも、私は、皆さんが喚起していただく材料が相当たくさんあると思います。そういったことを認識すれば、地域の見直しに十分つながると思います。そういう面では、今回の問いかけ、こういう場を作っていただいたのは非常に大きなことだと思いますので、いろいろな面で良い形でまとまるといいなと思っています。

## 座長

ありがとうございました。幾つかの視点がありましたけれど、まず1つ目の、地元の方の朝日遺跡に対する認知度が低いというご指摘について、中小企業庁による地域ブランドの成功事例、地域資源を活用した地域ブランドの構築に成功した事例の調査があります。埋もれていた地域資源を、地元の人がどれくらい認識しているかということと大体9割近いのですね。ですから、外の人には知らなくても地元の人が9割近く認識していたものが、PRすることによってブランドとして花を開くというケースです。そういう意味では、確かに朝日遺跡については、まずは地元の方がどのくらい認識しているのか、というところから始めないといけないという気もいたしました。

それから他に、幾つかご指摘をいただきました。ストロー現象については、交流人口も定住人口もすべて吸い取られるというイメージだと思うのですが、清須市に関しては、名古屋駅に非常に近いということで、他の市町村に比べますと非常にいろいろ有利な面がありますし、田舎暮らしや田園回帰というイメージよりはだいぶ都会的という感じがしますけれども、確かに両面あるというところもありますので、そういう意味では大都市に近いというロケーションを活かした若者や女性の定住志向、田園回帰、田舎暮らしの面、そういう清須の持つ面もアピールしていてもいいのかなと思いました。

地元のアクティブシニアの方を巻き込むという視点ですけれど、それも重要なのですが、それに関連しては、観光に来たときは、地場産品、地産地消で地元の物をお土産として買っていく人がほとんどなのですが、シニア層は特に本物指向ということで、どこで作っているのか、どこの原材料を使っているのか、どこで加工しているのか、そういうところまでかなり重要視しますので、清須でどういう物がお土産品として重用されているかというのは分かりませんが、地場産品として、すべて地元で作っている、というような製品も、観光に力を入れていくまちとしては、重視しなければいけないというふうに思いました。

## 平野委員

平野でございます。私は、昭和50年に鹿児島からこちらの方に就職をしまして、西枇杷島の三菱重工業に勤務して40年過ぎました。稲沢市平和町に住んでおりまして、いわゆる在勤者ということになります。

地元企業に勤めている者としてと、平成12年の豪雨でうちの会社も、1階部分すべてが水没するという非常に甚大な被害を受けました。そこで、企業としましては、その地域が安全であることが第一だと思っております。今、清須市の方では河川工事等を進められておりますし、こちらから言えば、できるだけ早く進捗をしていただきたいということと、安全であることをPRしていただかないと、企業の誘致という面では二の足を踏まれるというところがあるのかと思います。

それと、ちょっと話が飛びますけど、清須市として農業の話あまり耳にしないというのがありまして、農業の捉え方について、市としてどのような位置づけをされているのかという点です。国全体で農業をどう捉えるかということもあるとは思いますが、清須市として農業振興をどう考えられていくのかということがあると思います。

それから、企業側からすると、これは少子高齢化というところから出てきている問題ではあると思うのですが、少子高齢化でいわゆる労働力人口が減る。じゃあどうするか。女性の方にご協力をいただくということになってくると、女性の働きやすい環境を整えないといけないということで、企業としては育児休業だとか育児勤務といった制度を作りながら、女性の働きやすい環境を作っていくということです。行政の方に子どもを預けるところの拡充をやっていただければ、市内に住みながら清須で働いていただけて良いのですけれども、名古屋が近いということもありますので、その辺も考えていかないといけないのかなと思います。

それから、安全という面では、庄内川に架かっているJRと名鉄の橋の高架化、これは国、県との関係にもなってくると思いますので、清須市だけでという話には当然いかないと思いますが。自然災害というのは、最近火山の噴火がたびたび報じられておりまして、私の田舎の桜島も今ちょっと話題になっていますけれども、水害も平成12年に起きました。それは何10年に1回くらいの割合だとはいいながら、じゃあいつ来るんだと言われると、いつ来てもおかしくないということだと思いますので、国・県と連携をしていただきながら、できるだけ早期に安全な地域にさせていただくということをお願いしたいと思っております。

## 座長

ありがとうございました。今ご指摘の防災に対する備えというか、集中豪雨などの都市型災害が、近年かなり増えていますので、確かに企業立地、それから定住人口の増加に対しては、そういったものの取組みをPRしていくことが重要だと思いますし、企業に対しては、代替ルートや災害が起きたときの事業継続に対するいろいろな情報提供をしていく必要があるのかと思います。やはり、バックアップ体制が出来るとということが非常に重要かと思えます。

それから、農業についても、清須市に関してはパセリの生産については、ちょっと耳にした

ことがあります、確かに農業が盛んなイメージは、あまりないですね。

農業は今、6次産業化ということで、パセリでも通常の1次産品として生鮮品として出すのではなくて、意外性のあるもの、たとえばスイーツに使うなどといったインパクトや意外性がないと、観光客の方にもインパクトされないということがあります。単に地元の農産品のレシピを使ったり製品に使うというよりは、そういう方向性まで示した上で、地元企業とのコラボレーションで製品開発を進めていくというような取り組みも必要ではないかと感じました。

こちらで一通りご意見をいただきましたけれども、まだまだ清須市に関しては埋もれているポテンシャルの高い地域資源がたくさんあるなという印象です。やはり、大きくは観光振興というところが非常に重要であって、企業誘致に関しても、ブランド構築に関しても、観光というところを重点的に、何か幾つか具体的に改善していけるところはあるのかなというふうに感じました。

先ほど言い忘れた1点だけ追加したいと思います。今日、山本委員がいらっしゃるということで、最近、大手ビールメーカーでも、全国的にクラフトビールブームで、昔は本当に地場の小さい所がやっていたのですが、そういう所も買収したりして、割と規模が大きくなってきているということで販売数も伸びています。麒麟ビールさんの工場内にぜひ地ビール、クラフトビールの清須工場を造っていただき、清須ブランドを前面に出した、例えば信長ビールといった名称の清須ブランドの構築につながるような取り組みも考えられます。もちろん民間企業ですから、当然麒麟ビールさんにも何かメリットが出るような方向性で、タイアッププロジェクト化ができないかなと感じております。

それでは、1巡目が終わりました、続いては各委員さんが最も関連する重点検討分野について議論をしていくわけですが、それに際して課題・視点・方向性等について、またお1人ずつお話をいただきたいと思います。それでは、恐縮ですがまた同じ順番で、山本委員からお願いします。

## 2) 各委員が関連する重点検討分野に関する議論を深める上での課題・視点・方向性等

### 山本委員

2番目の重点検討分野についてですけれども、先ほどと共通する部分という部分が多いと思うのですが、やはり観光振興、こちらがポイントだと考えております。

市内最大の見学施設ということで、清洲城が昨年実績で約85,000人ということですが、私ども麒麟ビール名古屋工場の工場見学者が、昨年実績でおよそ99,000人、今年はかなり好調なので、おそらく初めて10万人を超すであろうという来場者数になっております。

先ほど山田委員のご発言にもありましたけれど、いろいろなコラボというところが重要だと考えております。清洲城と、富田委員が関わっておられる朝日遺跡ももちろんですし、美濃路もそうなのですが、内田先生のお話で出ましたように、市内の企業との連携というものがあるのではないのでしょうか。内田先生がおっしゃるようにアクセスの拡充なども1つの案かもしれませんし、逆のアイデアですけれども、クーポン券を配って、3カ所、4カ所と回れば粗

品進呈というのも1つの考えかもしれません。

ただ、そういった方向性、具体的な施策を決めるには、繰り返しになるのですが、やはりメインターゲットと目的、それから目標をしっかりと定めた上で政策を固めていきたいと思っております。

いろいろな案もありますし、私はキリンビールに勤めて20年近くになるのですが、直近10年は広報をやっております、工場見学施策の企画立案をやっておりますので、是非その経験を活かして、一緒に清須市、愛知県を盛り上げていきたいと思っております。

## 座長

ありがとうございました。観光分野についてさらに深掘りしていただきましたけれども、確かに清須市、周辺地域も含めてかもしれませんけれども、少なくとも市内の観光資源をパッケージで提案するというのは大切だと思います。

それから、集客数の実績がキリンビールの工場見学で10万人近い。今の国内のアクティブシニアは知識欲が非常に強くて、工場見学も非常にブームになっていますし、夏休みですとお子さんの自由研究なんかでもそういったニーズというのは出てきますので、シニア層とかファミリー層、そういった人たち、地元の人ほとんど車で動かれるとは思いますが、そこに対しての清須市内の観光パッケージというか、周遊ルートを提示できるかというと思います。時間やいろいろなテーマごとに、すでにあるのかもしれませんが、周遊ルートというのを提示できるような、スマホでも紙ベースでもいいですけども、何かあると良いのかと思います。もし、すでにある場合は、後で教えていただきたいと思います。

## 富田委員

皆様から朝日遺跡の話、たくさん話題にさせていただきまして、本当にありがたいと実感しています。

先ほどの仕事、業務に関連する部分ということで繰り返しになってしまうのですが、観光振興に力を入れていきたいと思っておりますし、朝日遺跡の話をたくさんしていただきましたけれども、やはり単体ではなかなか勝負するのは難しいというか、座長さんがおっしゃっているように、コラボによるパッケージ化ということがすごく重要だと思っております。

地ビールの話があっちょっと思いついたのは、朝日遺跡なのでキリンビールの「朝日ビール」。話題だけでも結構面白いかな、なんていうようなことを思いました。

専門的な分野ではないですが、先ほどお話が出ました、シニアの方にガイドボランティアをやっていただくというのは、本当に大事だと思います。私は勉強でいろいろな博物館や美術館へ出かけて行きますと、そういう方が本当に一生懸命に説明してくださって、まさにこういう地元の人にまず愛してもらって、「こんな場所がいいな」と思ってもらえる場所を作らないといけないなど、強く思っております。

そうした中で、個人的な話になってしまいますが、ボランティアをかれこれ20年くらい続けてきておまして、いろいろと思うのは、やはり男性は仕事を辞めてからボランティアをや

るといっても、一歩踏み出すことが難しいというところがあると思っています。女性の方は、普段から地域や近所の方と交流があるのか分かりませんが、割とすんなりボランティアに入ってきます。しかし、男性の方はなかなか難しいと感じております。

もし、こういうことが可能であればいつも思っているのは、50歳を過ぎたら名刺を2枚持つというスタイルです。そういった仕事の名刺とプライベートの名刺というふうに、2枚持つというようなムーブメントを作れるといいのかなと個人的には思っていました。できればそこで、ご自分の趣味や特技であることを活かしていただけると、もっといいと思います。生き甲斐とやり甲斐ができて、なおかつ地域にも貢献できる上に元気でいられるという、そういう相乗効果が、2倍、3倍になって人生が充実するムーブメントが、アクティブシニアの社会参加を促す施策の中でできれば、本当に素晴らしいというふうに、思っているところです。

先ほど山田委員から、本当にありがたいお話をたくさんいただきました。今日はここに来てよかったと思ったくらい、そんないい話を聞かせていただきました。こういう機会を作っていただいた、こういう場があるということはすごく大事だと思っています。

少々会議から外れてしまうかもしれないですけども、こういう機会を用意していただいて、じゃあそこからはどうするのかというふうに考えますと、まずはお見合いの機会を作ってもらったのかなと思います。ならば、次はここから一歩踏み出して、恋愛にいかなきゃいけないのかなと。そういうことが必要なのかなと思っているところでございます。

## 座長

ありがとうございました。麒麟ビールの「朝日ビール」という案は、おもしろいと思います。テレビ業界の感覚からみますと、やはり、NHKも含めて、飛びついて取り上げやすいものや政策にフィットした情報であると、地方創生の動きの中でもピックアップします。そういうトレンドに乗っていないと、なかなか取り上げられませんし、そこには何か面白さが必要です。「朝日」もカタカナでなければセーフのような気がしますので、是非その際には、名古屋工場の隣に地ビール専用の清須工場を作っていただいて、麒麟さんも清須市も朝日遺跡も全てがウィン・ウィンの関係だと思しますので、是非実現していただきたいです。

## 丹羽委員代理

若者目線からの定住・結婚・子育て支援というのが重点分野ですが、今、高校生を預かっておりますけれども、先ほど申したように8割くらいが市外から通っています。その時に、第一印象として清須市にどういう印象を持つのかなという部分がございます。

先ほど舟橋先生の方からお話があったけれども、確かに清須市は道が狭く複雑です。それから、駅周辺が非常に寂しいという印象がございまして。それから、夕方になると、本校の生徒の下校時などは暗いイメージがあり、実際に街路灯も少なく暗いところが多いです。

そういう部分で、生徒は清須市の印象を受けるものですから、やがて生徒が結婚して、最初はマンションやアパートに住むと思いますけれども、何年かすれば一戸建てを建てたいとなる。その時に清須市を選ぶかという部分で、高校生の時に受ける印象は結構大事なものですから、

このまちに良い印象を抱けるようなまちづくりをしていただきたいと思います。

ちなみに、長久手市などは、やはりまち全体に明るい印象を持ちます。一方で清須市はというと、まちがごみごみとしていて、少し暗い感じがいたします。明るい印象が持てるようなまちづくりをしていただければ、生徒は3年間もこのまちに通いますので、やがて生徒が子どもを持つ世代になったら、自ずと清須に土地を買って住みたいと思ってもらえると思います。

それから、JR、名鉄、それから城北線もありますので、駅がたくさんあるわけですが、本校の場合、学校から駅までのアクセスが問題です。駅へのアクセスが悪いものですから、本校の生徒は、みんな自転車通学です。そういった駅とのアクセスも考えていただければ、将来、清須市に住みたいと思うようになると思います。

また、市内の寿会のご老人を本校にお呼びしまして、生徒にお話を聞かせていただいております。そうした取り組みの中で、お年寄りの元気を頂いております。先ほど農地が活かされていないというお話が出ましたけれども、名古屋市にはそうした土地は民間に貸し出して農園をやってもらい、地元のシニアの方がお手伝いをされるといった取り組みがあります。そういうことをやってみてもいいのかなと思います。

## 座長

ありがとうございました。確かに若い人が来てくれることに越したことはないと思います。長久手市に関しては、やはり豊田市へ通勤するトヨタの社員の方が多いと点があるかと思えますし、名古屋市へのアクセスもよくて、高速道路のインターも非常に近い。そういう要素によって、市外から人が集まり、住民税を払ってくれる。それによって、図書館通りの整備や全体的なまちづくりに予算をかけられるということだと思のですが、清須市なりにそういったようないいイメージを作っていく、ブランド化を図るといのは必要ではないかと思えます。

先ほどの追加なのですが、外国人観光客を呼ぶ場合、お土産に日本茶を買っていく人が非常に多いということです。たぶん清須ではお茶は作っていないと思うのですが、土産品として「清須の急須」というのはどうかということで、第2の提案としてご検討いただければと思います。

## 舟橋委員

私は、アクティブシニアに関しての意見を述べさせていただきます。高齢化は避けられない事実なのですが、シニアがアクティブシニアであり続けるためには、どういうことをやっているといいのかということを考える必要があると思います。

私ども愛知医療短期大学は、市の高齢福祉課や社会福祉協議会の皆さんにご協力をいただき、年に何回か定例会議を持ちまして、いろいろな場面で話し合っておりますが、そういう中で、体力測定や体操教室の実施を何年も続けてきております。私どものリハビリの教員がその指導にあたっているということで、本当によくやってくれている教員がおります。

その中での課題は、PDCAサイクルに当てはめるとプラン、ドゥーはできているのですが、チェックとアクションが十分ではないことですね。チェックをすることによって、何が足りな

いか、清須市の高齢者の特徴はどういうところにあるのかということ、もう少しきちんとチェックした上で、それに対応したアクションを起こすということが、これから必要になってくるかなと思っています。

高齢福祉課の方には、市民アンケートなどもたくさんやってもらっております。その中で、1つ強く感じたのは、清須の高齢者の方々は、個人で何かに取り組むという積極性に欠けるといことです。みんなと一緒にいたいけれど、個人だけではなかなかやれないという印象を持ちました。

名古屋市でも、特に男性の高齢者の場合、自分からはなかなか外へ出ていかない。そうした点でいえば、女性は楽ですね。隣同士何人かで楽しそうに出かけていきます。ですから、どうやって男性に出てきていただくか。それには、気軽に集まれるような集会所があるといいのかなということを感じました。私は診療もしていますが、清須市の高齢男性は特に引っ込み思案というか、「オレはいいわ」というような言い方をされる方が多いです。

それから、今後、高齢化に伴って要介護者も増えてきます。老々介護をしているところがほとんどですね。老人が老人の介護をするという厳しい状況です。介護職員がこれから何十万人も必要になるということはすでに言われていることですが、介護職の待遇が非常に悪い。これもずっと言われていることです。若者が介護職に就いても20万円そこそこの給料では、結婚もできない。まして子どもも作れない。そういうことからすると、若者たちが、非正規職も非常に多いわけですので、そういう人たちが介護に回ってくれるということも、ある程度期待できないか。そういう意味では、介護もそうですが、我々が介護の予防になるような働きかけをすること、特に、リハビリや体操教室などを通じて、介護予防にこれから積極的に取り組む必要があるだろう。そうすることで、介護費用が削減されるだろうと考えます。

ただ、今後、介護度の重い人たちが高齢化に伴って出てきますから、そうすると訪問介護や訪問リハが当然、必要になってきます。今は80%以上の方が病院で亡くなっています。今後、本当は家で死にたいという人が多いので、そういうことからすると訪問介護、訪問リハの必要度が、段々と増してくるだろうと考えています。

もう1つは認知症です。認知症は400~500万人、その予備軍が400万人くらいいらっしゃいます。両方合わせると間もなく1,000万を超すわけです。これに関しては、私どもの教員の1人が、認知症予備軍になりそうな人を把握するようなテストを、先ほどの体力測定の中で今年度から始めました。これは、大府市にある国立長寿医療研究センターと共同研究という形でやっております。これから、どんどん認知症予備軍の人を見つけて、早めに対応することが重要です。認知症の原因はベータ・アミロイドというのが沈着することだといわれているのですが、それを早く見つけて、対応するというようなことが今後、医学的には必要になってくるだろうと思っています。

私どもは来年度、アクティブラーニングということに大学として取り組んでいきます。図書室を中心とした施設なのですが、来年から建物の工事に入ります。この施設は、地域の方が自由に入れるような形を取りたいと思っています。それから、地域連携室というものを施設の一画に作りたいと思っています。今後、その施設を活用して地域との連携を強めていきたいと

いうふうに思っています。

こうした取り組みは、今までにも「知（地）の拠点」というものがありました。今度これに地方創生が加わりまして、COC（センター・オブ・コミュニティ）プラスというもの、国から示されています。予算立てもされているわけですが、大学が知識と地域の中心になって、若者、大学生を集める。そして大学生が地域に就職して、その地域で結婚子育てをする。そういったサイクルを大学が中心になって考えるべきということで、それをやっていると国から認められて予算がつかますので、今後、この会議の場をお借りして、そういうことにも取り組んでいきたいと思っています。

## 座長

ありがとうございました。健康寿命を延ばすというのは、労働力人口が減る中では重要ですし、社会保障費への負担も減るということでも重要だと思います。

これも観光と絡めて、超ミニ医療ツーリズムのような形で、キリンビールとか朝日遺跡、清洲城、ここをウォークラリーのような形でパッケージを提案するというものもあり得るのかなと思います。

先ほど、キリンビールと清洲城は大体10万人くらいということでしたが、ひょっとするとセットで観光されているのか、それぞれ全くターゲットが違うのかといった点や、観光振興をやる上で、どういう顧客層、つまり、属性がどうなっていて、どういう地域から、どういう手段で来ているのかという現状の把握も必要かという感じがします。

あとは、先ほど意外性がある地域資源、加工食品なども含めて重要だという話をしたのですが、合わせてストーリー性がある体験型観光も考えられます。何もないところに突然、無理やり作るようなものというのはやっぱり非常に難しく、例えば「伊勢戦国時代村」なんかも、強引にそこに作ったので難しかった。名古屋港の「イタリア村」もなぜ名古屋でイタリアなのかという疑問がありましたけど、やはり、そういうものは今の時代、なかなか受け入れられないということです。この地域は遺跡もあれば、お城もあり、そういう歴史・文化に裏打ちされたストーリーを作るとするのが非常にやりやすいと思いますので、地域の歴史資源を結び付けるようなストーリーを改めて考えていく必要があるのかなと感じました。

## 山田委員

私が申し上げようとしたことは、今、内田先生からおっしゃっていただきました。まさしく本当にそう思います。資料では、政策の中で「点ではない。面だ」とありましたよね。私が思っているのは、先ほど触れましたけど、時間軸だと思っています。

これは、たとえば遺跡の案内を、弥生時代とか点で捉えてしまう。清洲城とか、歴史上のある一点で捉えてしまう。だけど、連綿と受け継いでいますよね。伝統を人の営みによって受け継いでいるじゃないですか。これをやっぱり、認識すべきだと私は思っています。

そういう面で行くと、もっと深めれば自然環境、清須市が存在している自然環境、なぜ朝日遺跡が、あれだけの都市がこの地域にできたのか。こういったことから始まるということです。

朝日遺跡が自然にあるわけじゃないんです。何故あそこに、ああいった都市ができたんですかということ。そうすると、自然環境、濃尾平野全体から見てどうだったのか。幅広い認識が絶対必要だと思います。

例えば、養老山系に多度山がありますが、多度山から濃尾平野を一望しますと、言葉は関係なく、一目瞭然です。水が多いときは、濃尾平野が水浸しです。それをどう考えるかですよ。我々は地面で見ていると、勝手に線路を引いて電車を走らせていますけど、これは何かですね。全部、自然との闘いだったり、今までの環境の中で、自分たちが得手勝手にやってきただけの話ということも、認識しなくてはいけない。そういったことをキャッチする。では、現代人として、そこを受け止めてどうするかです。この視点は絶対に必要だと思います。

そういったスケールの大きなことは、なかなか認識できませんけれど、歴史の中に存在しているこのエリアの重要性、これは皆さんに認識してもらいたい。だから、ある歴史上の「点」で知ってくださいではなくて、そもそも歴史というものは、連綿と受け継いでいるわけです。我々はこれから次世代につなげていかないといけません。今ある清須をどうするかということは、次世代のために何を残していくかです。まさしくここにかかっていると思うので、そういう観点で物事を見ていくことが極めて重要だと思っています。

それから、富田委員が先ほど、生き甲斐、やり甲斐という言葉を使っていたのは、まさしく大同感でございまして、実は普段に私が組織内でも使っている話です。何故かという、仕事というのは何のためにやっているのかということなのです。私は団塊の世代の方々につき合っていますけれど、あの方々は家庭を顧みず一生懸命に企業戦士でやってこられました。そういう方が家庭に帰りますと、たいてい奥さんにとっては異分子ですね。これは非常にもったいないですよ。そういった方々が知的資産を活かして地域のために働いてもらおうと、その方々の生き甲斐、やり甲斐にも十分つながると思いますので、これも重要だと思います。

こういった会議の場で、地域を再認識することに地道につなげていくことが必要です。やはり、根幹のところを議論する必要があると思っています。

## 座長

ありがとうございました。先程ストーリー性という話はしたのですが、どちらかという現時点でのイメージだったので、時系列で歴史的につなげていくということの重要性は、地域住民の方が地元で自信を持てるというか、正しく認識する点でも、非常に重要なのかと思います。清須市には、最近ベッドタウンというか通勤族の方も住まわれているかもしれませんが、定住者だけではなくて、通勤族なんかも含めて、清須市を正しく認識してもらおう機会というのは重要だと感じました。

## 平野委員

観光の関係ですけど、清須市には清洲城、朝日遺跡、美濃路、それから、五条川の桜といったように、1つの市の中にこれだけの観光資源と呼ばれるところがあるというのは、すごいところかと思うのですけれども、逆に言えば、それが今いろいろと話に出ておりますように、広

く知れ渡っていないという面から考えると、もったいないというような感じを受けております。いろいろ対策はあると思うのですが、交通アクセス、駐車場、広報といったことについて、いろいろと考えてないといけないことだと思いますので、今後そうしたことを検討していけばいいのかなと思っています。

それから、少子高齢化の関係については、資料から見ると清須市では総数的な人口減少の影響は小さいというところ、それから出生率も平均的には高いという数字が出ております。

団塊の世代の方々が生まれたときの出生率は、たぶん4から5といったような数字だったと思うわけです。そのときに国としては、この状況で人が増えると人口が増え過ぎるということで、対策を立てたはずですから、その後、出生率が2を割るという状況になっています。

自分が言いたいのは、今、昭和でいうと90年ですね。昭和20年ですから70年くらい経って、人口というのはそういうスパンで影響が表れるということだと思います。少子高齢化対策というか、それも今のうちにいろいろ考えておかないと、これから40年から50年経つと、またその時点でとんでもない話になるということにもなりかねないということです。

少子高齢化を考えるということは、イコール住みやすいまち、それから、子育てがしやすい環境を整えるということだと思いますので、ひとつはそういう観点で考えていただければと思います。

## 座長

ありがとうございました。今のお話にもあるように、清須市には様々なポテンシャルがあります。今日は、各専門分野の委員の方々にお越しいただいて議論したのですが、この時間だけでも、埋もれているコンテンツというのは、かなりあるなと感じました。ですから、これをうまくまとめて、市がバックアップできるようなところはやっていくということを進めていけば、非常にいい方向性が見出せるのではないかというふうに感じております。

## 事務局

内田先生ありがとうございました。

皆様方から様々なご意見を頂きましたので、そういったご意見等について、今後は具体化していくため、提言会議において議論を深めてまいりたいと思っております。

## 3 開会

### ○市長あいさつ

#### 加藤市長

本日は、大変長時間にわたりまして、熱心にご議論をいただき、誠にありがとうございました。

特に清須市の弱点といいますか、災害に強いまちづくりという点で治水、安全・安心ということは非常に大きなことだと思います。これは実績が出ています。東海豪雨以降、すぐに人口が減って、企業さんが廃業したり外へ出て行ってしまったりしたわけです。その後、より安全

な川、安全なまちづくりを進めていく中で、少しずつ人口が戻ってきて、徐々に企業さんも来ていただいているという状況です。そういう意味で、本日お話があったように安心・安全というところは一番に大事だなと思っておるところです。

それからやはり本日のご議論にもありましたとおり、地域資源が活かされていないというところですが、これも市民の皆さんがこの地域に愛着と誇りを持つということが原点で、観光振興という道筋になるというご意見をいただいたところです。私といたしましても、この地方創生につきましては、市民、企業、行政が一体となったかたちで進めていくものでなければいけないなと思っております。

今後は戦略提言会議において、専門的な議論を行っていただき、またそこでの議論を踏まえて、この推進会議で全体の協議をしていただくということになりますので、よろしく願い申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。

本日は長時間にわたって、本当にありがとうございました。

以 上